

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		協力会社名	-
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	鈴木 悠平
作業名称	剥落対策工(たたき落とし、防錆処理)	作業手順書	作成年月日	令和4年12月10日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・クラスを記す)	ダンプ、(高所作業車、橋梁点検車)		協力会社店社確認	自筆サイン
使用工具 機器 (大きき太き等は具体的な寸法を記す)	石頭ハンマー、ディスクグラインダー、ケレンブラシ、防錆処理材、土壌、飛散防止ネット、手鎌、		元請確認	自筆サイン
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、手袋、安全帯、保護マスク、保護メガネ、脚立、耐切削手袋		改正年月日	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特)の区別を記す	自動車運転免許証 特別教育:職長・振動工具取扱 技能講習:高所作業車		作業順序	
作業人員 (当作業に関わる役割と人員を全て記す)	作業責任者 1人、作業員 3人、(操作者1人) 合計 4名			
作業手順	作業責任者(職長) _____ 周知会実施日 _____			
周知会 参加者 サイン (記録)	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする) _____ _____ _____			
1	準備作業		2	設置位置確認
2			3	叩き落とし
3			4	ケレン
4			5	養生材塗布
5			6	後片付け
6			7	
7			8	
8			9	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	架空線の確認							
高所作業車、 橋梁点検車設置 (運転手) または 脚立設置 (全員)	施工までに草刈が必要な場合は手鎌を使用し草刈を行う	作業個所の確認を行い、必要に応じて草刈りを行う。責任者は作業員が作業に適した保護具を着用したか確認する。	手鎌や機械で手を切る	△	△	△△	3		草刈りを行う場合は耐切削用手袋を着用する。草刈機等が必要な場合は草刈作業の手順書に則り、道具等準備し、作業する。
	作業計画書に則り、車両を設置	安定した場所に設置する	使用時に傾き転落する	△	×	△×	4		地盤を確認し設置する
	監査路の梯子、壁面に立てかける	安定した場所に設置する	使用時に傾き転落する	△	△	△△	3		地盤を確認し設置する
叩き落とし	点検ハンマーを使用しコンクリートの浮いている箇所を叩き落とす	飛散防止	コンクリート片が落下し、接触する	△	×	×△	4		飛散防止ネットの使用や、周囲に養生ネットを設置する
			飛散したコンクリート片が目にあたる	△	×	×△	4		保護メガネを着用する
	叩き落したガラを土壌等に詰め、回収する	重量	土のう運搬時腰を痛める	△	△	△△	3		無理に持たない
ケレン	ディスクグラインダー、ケレンブラシを使用し鉄筋の錆を落とす	手元注意	ディスクサンダーで手を損傷する	△	△	△△	3		無理な体制で作業しない。保護手袋を着用する。
		飛散注意	鉄粉等が目に入る	△	×	×△	4		保護メガネを着用する
養生材塗布	養生材を混合する	取扱い	促進剤と硬化剤が触れ熱を帯びる	△	×	×△	4		手順を確認する。
		飛散注意	養生材が目に入る	△	×	×△	4		保護メガネ、手袋を着用する
片付け	清掃	路面に土砂・破片等が残っている							ほうき、プロアー等を使用し、施工範囲を清掃する
		落し物・忘れ物							周囲を確認し、忘れ物がないか確認する
									工事車両等を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事